

球磨工業高校 教務だより 1月号



「異文化に触れる（多様性）」

令和4年（2022年）2月1日発行

新年となり間もなく新型コロナウイルスの第6波が猛威を振るっています。分散登校となりますが、学びを止めぬよう一緒に頑張っていきましょう！

今月のテーマは「異文化に触れる（多様性）」です。皆さんの身のまわりのメンバーを思い出してみてください。年齢はほぼ同じ、生活する地域も同じ、学ぶ内容も同じ、のように同質性が高い集団になりやすいのではないのでしょうか。同質性の高い集団では、会話の前提が揃ってくるので、どんどん情報が省略されます。

友達同士で「昨日見た？」という会話が通じてしまうことありませんか？友達同士で好きな YouTuber が同じだったら、「昨日見た？」＝「昨日、（〇〇がアップしていた YouTube の動画）見た？」と頭の中で変換されて会話が成り立つのです。ここに異質な人が入ると、前提が揃っていないので、質問するでしょう。

「昨日何があったの？」「〇〇って YouTuber って、どんなことしてるの？」「へー、そういうのが好きなんだ。じゃあ△△も好きなんじゃない？」これらの質問に答えていくと、会話がすすみ、新たな気づきが生まれる可能性があります。次の「 」を答えると、（ ）内のことを気づくかもしれません。

「昨日、〇〇の動画がアップされたんだよ」・・・（昨日動画見てて、宿題やる時間遅くなっちゃったな）
 「ゲームの実況動画を、よく上げてるよ」・・・（俺は何で実況が好きなのかな？ゲームの分析が好きなのかも）
 「え？△△って知らなかった！」・・・（新たな情報ありがとう！楽しみができた！また情報交換しようぜ！）

このように、新たな気づきとして、自分の時間の使い方を振り返ること【生活の見直し】やゲーム好きの中でも分析好きという【自分の価値観を発見】、情報交換することで【新たな情報交換ができる仲間とルートの開拓】など、会話から気づき生まれ、生活や関係性をより豊かにできるのです。いつものメンバーだと「違いがない」ので、会話はポンポン進んで楽ちんですが、気づきはほぼないでしょう。考え方や、好きなこと、生活リズム、家庭環境が異なる人が入ると「違い」が生まれます。これが多様性です。多様性はダイバーシティとも言われ、企業文化や組織をつくる時に重要視されています。

ドラマ・漫画「ミステリと言う勿れ」の主人公：久能整（くのう ととのう）は、「僕は常々考えているのですが・・・」と語り出すときに、「多様性の大切さ」が含まれることも多いので、チェックしてみてください！



2月 2022 February 令和4年・如月			木/thu	金/fri	土/sat	日/sun
			27	28	29	30
31	1	2	3	4	5	6
前期選抜結果報告	後期(一般)選抜出願～4日 情報技術検定			工業基礎学力テスト(2年) 漢字検定		
7	8 (短)	9	10 (短)	11 建国記念の日	12	13
出願変更～10日	卒業判定会					
14	15	16	17	18	19	20
3年生登校日	学年末考査(1/2年) 追試(3年)					
21	22 (服・科)	23 天皇誕生日	24	25	26	27
26(土)の代休	火②③ 午後:生徒家庭学習		後期(一般)選抜 【生徒家庭学習】		後期(一般)選抜採点日 【生徒家庭学習】	終日:生徒家庭学習
28	1	2	3	4	5	6
同窓会入会式(午前) 卒業式予行(午後)	卒業式 1・2年生は家庭学習					危険物取扱者特定試験
						【生徒家庭学習】

自分の文化をつくる

英語科 本山早智子

何十年も昔、中学生の春に母からカセットレコーダーを買ってもらいました。それに教科書の英文を吹込んで繰り返し聞いては発音の練習をしていました。たったそれだけで何か特別なことをやっているという感覚が気持ちよく英語だけはスーッと頭に入っていました。「サイモン＆ガーファンクル」の“Sound of Silence” “Mrs. Robinson”のレコードを聴きながら一緒に歌ったり、洋画のセリフを覚えてはその世界を想像したりしていました。また学生の頃「ABBA」や「Queen」のコンサートに行くと彼らの歌声や雰囲気魅了されたのを覚えています。

社会人になってからはおもに ALT ですが、彼らから自国のこと、家族のこと、さまざまな体験談や思想について聞くだけでとても興味深く面白く感じました。彼らは自分の国のいいところも悪いところもよく理解しています。中には日本の「生け花」に魅了され、その道を究めるために京都の家元に弟子入りした人もありました。また新婚旅行で経由地のシドニーに向かう途中、隣席のオーストラリア人の青年と話す機会があり、その時に彼が外を指しながら

「Australian sunrise.」と言ったので見てみると、暗闇から広大な大地がだんだんとすがたを現わすさまがとても印象的でした。そういう彼らに共通して言えるのは「吸収力」「決断力」「行動力」があることです。そう言えば学生の頃、教授に「これからは韓国が台頭してくるから今から韓国語を勉強したほうがいいぞ。いつでも教えてやるから。」と言われたことがあります。興味もない韓国語に対して当時の私は「はあ…」という返事しか返せませんでした。今思えばもったいないことをしました。時間は十分にあったのに自ら韓国語を習得する機会を逃してしまったのですから。

「ちょっとあの人が苦手だな」「これ苦手だからやりたくない」って思うこともありますよね。でもそっぽを向くとその人の隠れたいいところが見えなかったり、得意なものをつくる機会も逃してしまうかも知れません。人はそれぞれ生きてきた文化を尊重しあうべきだと思いますし、そこからまた新しい何かを吸収し人間性を高め合っていけると確かに思います。みなさんにはこれからどんな出会いがあるのでしょうか。

Living in a Multicultural Society

Valeria Trevino

As someone who has lived in Mexico and the USA, there are many cultural differences and obstacles that I would have only experienced by moving to America. Moving to a different country was scary, but quickly I started to feel better because it gave me the chance to start again and be myself more freely.

Growing up in Mexico, there were certain things I just couldn't understand about our culture. It seemed that everybody had to follow certain traditions or ways of acting to avoid feeling shame. An example is the high percentage of people who are Catholic in Mexico. My parents aren't religious, so I didn't grow up going to church or praying every night. Yet, many people did those things and because I was a child I thought I was the weird one for not being like them. It wasn't until I moved to America where you meet and talk to people from different backgrounds and religions that I felt free from that burden.

Living in a multicultural society, also sparked my curiosity to learn more deeply about other people's cultures and languages which ultimately allowed me to fulfill my dream of coming to Japan; and gain tolerance and empathy for others.

多文化社会に生きる ヴァレリア・トレヴィーノ

メキシコとアメリカに住んでいた私には、アメリカに引っ越して初めて経験した文化の違いや壁がたくさんあります。別の国に引っ越すのは怖かったですが、すぐに気持ち晴れ、再出発の機会を得てより自由を感じることができました。メキシコで育った私は、自分たちの文化について理解できないことがありました。誰もがきまった伝統や行動に従わなければならないような文化でした。例えば、メキシコではカトリックである人々の割合がとても高いのです。私の両親は敬けんな信者ではないので、私は毎晩教会に行ったり祈ったりすることはありませんでした。それでも多くの人がそういうことをしていたので、子どもだった私は、彼らのようにしないのは変だと思いました。私がアメリカに引っ越して初めて、さまざまな背景や宗教の人々と出会い話をできるようになり、その負い目から解放されたと感じました。

多文化社会に住むことで、他の人の文化や言語についてもっと深く学びたいという好奇心も刺激され、最終的には日本に来るといふ私の夢を実現することができました。そして今の私は、他人への寛容と共感も得ることができました。